



ざんぐり



京都SKY大学
同窓研修会会誌
第110号



秋のバス研修旅行 奈良県明日香村 高松塚壁画・女子群像 (2・3ページ参照)



一 目 次

秋のバス研修旅行	奈良県明日香村「飛鳥美人に会いに」……………	伊藤哲(2)(3)
秋のミニ講座	植物園「秋涼の草花巡り」……………	岩本照美(4)
秋のウォーキング	「山科川を六地藏駅から東野駅まで遡る」に参加して ……	服部幸策(5)
共催講演会	「高齢者とデジタル」を聞いて……………	吉村辰江(6)
投稿	「アースデイ」(その2)「水の惑星・地球」……………	木村高志(7)
投稿	スコットランドへのお誘い……………	小島哲三(8)(9)
事務局だより	新春バス研修旅行、同窓研修会継続入会のお願い 他 ……	(10)

発行 / 京都SKY大学同窓研修会
編集 / ざんぐり編集委員会

秋のバス研修旅行 2022年10月28日

奈良県明日香村「飛鳥美人に会いに」

理事 伊藤 哲

明日香村を訪ねるのは、何年振りだろうと思いつつ…。その前に、時系列で紹介していきます。バスは8時40分に京都駅前を出発、第二京阪、近畿道、南阪和道の高速を走り、橿原市を通り奈良県高取町の壺阪寺を最初に訪ねました。山あいの車道を走り続けると中腹に堂宇がこつ然と現れます。

壺阪寺講堂で由緒・概要の説明を拝聴しました。最初にお寺の方から由緒などの説明があり、小グループに分かれてガイドさんの案内で境内の説明がありました。京都の清水寺が北法華寺と呼ばれていますが、南法華寺が壺阪寺で、清水寺より古い704年の創建。清少納言の枕草子に笠置寺、長谷寺とともに紹介されているらしい。藤原宮、キトラ古墳などを直線で結んだ「聖なるラインの最終地」というお話も眺めの良い地点から紹介していただきました。人形浄瑠璃にもある目の悪い沢一とお里夫婦の悲しい物語も聞き、坂や石段を上り下りし、1時間のガイドさんによる案内で散策を楽しみました。



壺阪寺：中腹にある堂宇は坂道や石段を上り下り



壺阪寺 三重塔

昼近くになり、道の駅での買い物と柿の葉寿司をいただきに昼食会場へ向かいました。昼食はおいしかったです。柿のお菓子もついていました。

「やまとは 国の真秀（まほ）ろば たたなづく 青垣（あをかき）山籠（やまごも）れる やまとし麗（うるは）し」。（大和は国のなかでももっともよいところだ。重なりあつた青い垣根の山、その中にこもっている大和は、美しい 古事記より）

秋晴れの下、コスモスの花が咲き誇り、野焼きの煙がたなびく景色を眺めながらバスは高松塚古墳近くまで走り、いよいよ飛鳥美人の待つ高松塚古墳・高松塚壁画館へ地元ボランティアガイドさんの案内で歩きました。



高松塚古墳



高松塚壁画館



高松塚壁画館



元気に元副会長の北村さん夫妻も参加

高松塚古墳は、昭和47（1972）年に地元の人が生姜などを保存する場所のために穴を掘っていたところ、固い岩盤のようなものを見つけたところから発掘調査が始まります。高いところに松が生えていたということで高松塚というなんの変哲もない話です。が、壁画館に入ってみると多くの見学者で込み合っていました。

東西南北の壁に、四神の図（東 青龍、南 朱雀、西 白虎、北 玄武=亀と蛇）、星宿図、被葬者を守る男子群像と飛鳥美人の女子群像が描かれています。有名な女子群像には顔を隠したりする団扇や儀式に使用される如意も描かれています。四神はすべて入口の方に正面しており、被葬者の尊貴が表現され、明るい印象の壁画として表現されています。



万葉文化館：飛鳥時代の生活様式の展示

最後に訪れたのが、奈良県立万葉文化館です。飛鳥時代の生活様式などが分かりやすく展示されていて万葉ロマンに浸りました。

色々な思い出を胸に秋の夕暮れを迎え、京都駅まで戻ってまいりました。皆様お疲れ様でした。

同窓研修会主催 ミニ講座 2022年10月28日

府立植物園 秋涼の草花巡り

副会長 岩本 照美

日 時：令和4年10月28日(金)
午前10時から12時
場 所：京都府立植物園
京都市左京区下鴨半木町
講 師：青木 壽子 氏
(京都府立植物園公認ガイド)
受講者数：18人

清々しい秋晴れの空の下、植物園の北門前は、コスモスが満開であり、鮮やかな色のコスモスに受講生の方々から感嘆の声が上がり、深まりゆく秋を楽しもうという気持ちが感じられた。講師の青木壽子氏は、日に日に変化していく植物の様子を観察され、採集された木の実等を持参されて五感を通して植物の様子を具体的に伝えていただいた。

この時期の植物は、次の季節に向かう準備として様々な様相を呈して日々変化している。まずはイチゴノキとの対面である。色鮮やかな赤い実がおいしそうに見えるが「まずい」と言葉に出るほど気の毒な実である。翌年に実となるスズランのような花と一緒に赤い実が揺れていた。5年周期で実を付けるといわれるブナを幸運にも見る事ができた。トゲトゲした殻斗の中に実があるとのこと。実は脂肪がたくさんつまり、栄養満点で山の動物の好物である。動物たちの歓喜の声が聞こえてきそうである。カツラノキの落葉には香ばしいカラメルのような香りがする。黄土色になって落葉する葉のみに香る甘い香りに嗅

覚が刺激される。シナアブラギリが日照により光合成を行うため、葉柄を様々な長さに変化させ葉を生い茂らせている。大きな種子から油を抽出できるが良質の油ではないので油紙等に加工される。バクチノキは博打に負けて衣をはがれるからついた名前のような。まさにうろこ状に剥がれる樹皮に驚かされる。赤膚の幹とは対照的に枝先にはバラ科の美しい白い花が咲いている。ふと木々の足元に目をやるとフジバカマが咲いている。オルトクマリンの作用で桜餅のような香りがするそうだ。ムクロジの実も不思議な実である。サポニンにより石鹸のように泡立つ。寺に植えていることが多いとか。袈裟を洗う石鹸として使い、実は数珠にするそうである。香りに誘われてカヤの木の下に来るとレモンとユズを合わせたようなさわやかな香りがする。高級家具や将棋盤などにするそうである。カヤは、葉の先が尖り痛いのが特徴だそうだ。パンパスグラス等のイネ科の植物にはノギという棘状の突起がある事やウコンには偽茎がある事、又、オーストラリアの山火事で黒焦げとなったクサントロエア・ジョンソニーの茎から芽が出て、元気に育つ姿に生命力の不思議を感じた等、種々の話の中から、植物の息づかいを、五感を通して感じる事ができた。植物は、多くのエネルギーを蓄え休眠期の冬へ、春の出会いを楽しみに引き続き様子を見ていこうと思いつつ講座を終えた。



秋のウォーキング 2022年10月24日

「山科川を六地蔵駅から東野駅まで遡る」に参加して

服部 幸策

10月24日朝、本日のウォーキングには、13名が地下鉄六地蔵駅に集合。出発の前に引率責任者の木村理事からコースと注意事項の説明を受け、真っ青な秋空のもと、9時34分、本日のゴール「東野」を目指し出発。

歩き始めて直ぐの山科川に架かる新六地蔵橋付近には、その昔「櫃川橋(ひつかわばし)」という橋が架かっていたという。「櫃川」は山科川の旧称。山科川は、伏見区陀羅谷の千頭岳(せんずだけ)を源流とし、牛尾山の麓までを音羽川、その下流を山科川と称し、山科盆地のほぼ中央を南下、宇治川に通じる一級河川、長さは15キロ。櫃川を詠った夫木(ふぼく)和歌抄(1300年衣笠内大臣夫木)に「ひつ川の岸に匂へるかば桜散るこそ花のとじめなりけれ」と昔も山科川に多くの桜が植えられていたことがうかがえる。

歩き始めると意外にも日差しが強く汗ばむような陽気。山科川の兩岸には白い穂先のすすきや場所によっては赤く染まったナナカマド、ほのかに色づいた桜紅葉、真っ赤なカンナ、ピンクのコスモスなどが美しい秋色を散りばめてくれている。時には、空を舞う鷺や川の水をよぎる山ガラ等の鳥たち等、正に自然豊かなウォーク日和を体感する。山科川は昔から大雨が降ると氾濫し大きな被害を受けるため河川改修が幾度となく行われてきた。そのため川の兩岸もよく整備され、朝夕、休日の散歩やジョギングを楽しむロードとして、多くの市民に愛用されている。特に、堤防の重要な植栽として沢山植えられている桜は、開花時期には山科の桜どころの一つとして、これを愛でる人たちで賑わいを呈する。

午前11時05分、旧安祥寺川と山科川の合流地点にある勸修寺公園着、トイレ休憩後、参加者全員で記念撮影。公園内の銀杏並木の色づいた黄葉が目にも染みる。

本日の出発点の六地蔵から東野までに山科川に架かっている橋は16橋梁、六地蔵から、12番目の橋「番所橋」着、11時27分。同橋の名付けのいわれは、山科川の魚を御所に献上するため魚を盗まれないように見張り番所を設けた場所であったからとのこと。午前11時35分、14番目の橋、「封シ橋」着。同橋は、その昔、山科川が大雨でよく氾濫したため河川改修により今の流れに変えられた。そのため、元の山科川に水が通らなくなった。即ち、水が封じ止められたため名付けられたという。

11時50分、本日のゴール、地下鉄東西線東野駅に到着、木村理事から参加者の完歩に対する労いのご挨拶をいただき解散。手元のスマホの歩数計は1万2千歩、約8キロを表示していた。本日のウォーキングに感謝!



山科川 デルタ公園を望む

共催講演会 2022年9月12日

「高齢者とデジタル」を聞いて

理事 吉村 辰江

IT・SNSと聞いて「エェ～何か怖い」と思っている高齢者は多いと思います。私もその一人です。

ロームシアター京都でおこなわれた、ITエバンジェリスト・若宮正子氏の講演を聞いて、その考えを少し修正しようと思いました。

ITエバンジェリストとは、IT業界での職種の一つで複雑で馴染みのないIT技術やプロダクトの価値をユーザーに分かりやすくプロモーションする役割を指します。

若宮氏は1935年生まれで、厳しい戦禍のなかで疎開も経験した子供時代、全てが手作業の仕事についていけなかった銀行員時代。銀行員時代の後半には、機械化が進み、コンピューターが人間の足りない所を補ってくれ、単純な反復作業から解放され、行動範囲を広げてくれました。58歳でパソコンを手にし、各所での勉強会等で学び始めました。母の介護で外出もままならない時もインターネットで世界中とつながり、孤独にはならず“つばさ”を広げていきました。

「高齢者こそITが必要」

交流サイト「メロウ倶楽部」で活動し、多くの年代も性別も違う人たちと交流し、高齢者の知識が役立つアプリ「ひなだん」を開発します。このことで、最高齢のプログラマーとして認められました。さらに、エクセルを使って、日本の伝統絵柄を作る「エクセルアート」も作りました。アップルのCEOとも面会し、高齢者に優しいスマホ造りをお願いしたということです。

「デジタルはあなたの命を守ります」

災害時の避難指示・健康管理・ショッピング・キャッシュレス・テレビ等とは違い受け身だけではなく双方向での情報管理、オンラインで繋がることでの孤独の解消等々。デジタルがもたらす恩恵は大きいのです。

デンマークやエストニアでは、ペーパーレスや電子政府化が進んでいます。これらの国ではデジタルになじまない人々のサポート状況も充実し、高齢者施設でもIT教育が行われ、誰も取り残さないよう配慮がされています。

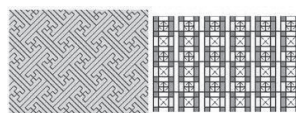
「情報はあなたのもの」

高齢者が今までに生きてきた中で、興味を持った物、経験してきたこと、趣味やボランティア活動を#（ハッシュタグ）を付けて発信しましょう。あなたの情報が新しい世界の広がりきっかけになります、人生100年時代に有意義に生きるために生涯学習を続けよう。

いくつになっても成長です。

今回の講義で最も感銘を受けたのが、80歳を超えている若宮氏がパワフルな事、90分に及ぶ講義中、立ったままで、メモも見ないで、話し続けられたことです。

私達の素晴らしいお手本です。



エクセルアート



ひなだん

投稿

アースデイ (その2) 「水の惑星・地球」

副会長 木村 高志

1961年4月12日、ユーリーガガーリンがウォストーク1号に搭乗して世界初大気圏外を飛行「地球がよく見える。美しい。地球は青い」と名文句を吐きました。宇宙から見た地球は青く輝き、「水の惑星」とも呼ばれています。

水は温度変化だけで、0℃以下では個体(氷)、そして液体(水)、100℃以上では気体(水蒸気)の3つに姿を変化します。太陽から惑星までの距離によって、水が液体として存在できるハビタブルゾーンがあります。地球はこのゾーンの中にあるため液体の水があります。46億年前小さな惑星同士ぶつかりマグマの地球が誕生した。なぜ地球は水の惑星に成ったのかは、火星と木星の間に水が気体と固体の氷に分かれるスノーラインという境界域にある小惑星が地球に落下し、岩石の中に化合物の形で存在した水が解け水蒸気として放出され、地球の表面の温度が100度以下になったときに、水蒸気が雨となって降り注ぎ岩石の上に海洋が形成されました。

地球の表面の3分の2は水で覆われていて、およそ14億立方キロメートルの水があると言われています。しかし、その大部分の97.5%は海水であり、淡水はわずか2.5%程度に過ぎず、この淡水の大部分70%は南極や北極地域などの氷や氷河として、29.2%は地下深くに存在し、0.8%は浅い地下水や河川、湖沼などの水として存在し、使える水は0.01~0.02%に過ぎと言われています「水の惑星」とも呼ばれる地球ですが、このように実際に使うことができる水の量は意外と少ないのです。地球全体にある水の量は変わらず、海から蒸発して雨となり、陸へ行ったり来たりして循環しています。

人類は誕生して以来地球の隅々まで移動し

自給自足の生活の場を形成していきました。地球の人口は1800年10億人、1970年36億人、2000年60億人、2022年80億人、水の使用が年々増えています。国連も2050年97億人、2080年104億人と増え続けると予想している。一方で水の汚染が進み、使える水の量は減り続けている。こうしていま地球規模で水不足がおきている。今後は地球温暖化の影響もあって、水不足はさらに深刻になると考えられている。北極、南極、山間部などの氷は地球温暖化の影響を受け溶け始めている。2025年までには世界人口における3分の2が水不足になると危惧されている。丸い地球は一つ。

今新科学技術が発明されるとすぐ先進的な利用技術が開発されます。ただその先進的な利用技術の便利さだけが急速に普及し、その技術による弊害を取り除く方法や技術の開発が事前にされていない。プラスチックはその一例だと思います。どんな形、硬さ、薄さにも加工され生活の必需品になっていますが、最後はゴミとなって廃棄されます。発明された当時、それが海洋汚染のゴミとなり、マイクロプラスチックになり、魚が餌さと思い食べ最後は人間が食べるとは誰も想像しなかった。

人間は水が無いと生きていけません。地球は人間だけの地球ではありません。他の生き物や植物も水が無ければ生きていけません。孫やひ孫が安心して暮らせる地球にする。SDGsは最後の努力目標ではなく、理性ある人間が考えた最後の必達目標です。

茨木のり子さんの著作に「水の星」という詩があります。「宇宙の漆黒の闇のなかを、ひっそりまわる水の星、・・・中略・・・軌道を逸れることもなく、いまだ死の星にもならず、いのちの豊穡を抱えながら、どこかさびしげな、水の星・・・以下略・・・」

投稿

スコットランドへのお誘い

理事 小島 哲三



イギリス本土の最北端のまちサーソ(THURSO)をご存じですか。そこへ行くには飛行機ならロンドンからエジンバラ(スコットランドの首都)へ、次にプロペラ機に乗り換えてウィック飛行場へ行き、最後に車を使って4時間ほどで着きます。列車ではロンドンからインバネス(街の近くにネス湖が有るので有名)まで特急で8時間、そしてローカル列車に乗り換えて4時間かかります。

スコットランドはイギリス本土の北部地域にあり、サーソはそのスコットランドでも最も北の街、日本では稚内あるいは根室といっ

たところでしょうか。ちなみに緯度は58度、日本の最北稚内の45度に比べてもずっと北に位置します。

街は北海に面して人口は9千人ほど、大きな町ではないですが、スーパー、商店街、銀行、郵便局、ホテル、教会と暮らすには十分な施設がそろっていて、滞在中にボウリング場もできました。近くにはUKAEA(原子力公社)の施設があり、ここに勤める多くの人がここサーソから通勤しているとの事。

街を一步外れると人家は無く一面に草が生えているだけの大地がどこまでも続き、ときおり草をたべる羊がいる程度で原野が広がっています。こちらでの見どころは、イギリス最北端の岬ダンネットや北東端にあって断崖絶壁つらなる海岸にピラミッド状の巨大な岩が浮かぶダンカンズビーです。



サーソの街



最北端、ダンネット岬の灯台



どこまでも広がる原野

一方、南へ車を走らせると今も貴族が住む美しいダンロビン城やウイスキーの蒸留所もあります。もっと足をのばせばネス湖へ行けます。運が良ければ、うわさの恐竜ネッシーに会えるかもしれません。

そんなスコットランドのサーソに現役の頃、2年ほどにわたって、仕事で通う機会を得ました。先のUKAEAとの合併会社が設立されて、内容の見直しや改善の為です。

イギリスといえばロンドンと産業革命が始まった国という程度の知識しかなかった私には、スコットランドのしかも北辺の小さな町に滞在しての仕事と生活は全く未知の出来事で、貴重な体験と非常に強い印象がのこりました。近代的できらびやかな建物は一切見当たらず、何百年も以前からこの町の景色は変わっていないのではと想像してしまいます。しかし個々の建物はもちろん、道路も、公衆トイレ、公衆電話BOXまで丁寧に手入れがされており、わびしさは感じません。機会があればあらためて現地での様々な体験を書きたいと思います。

スコットランドは、自然が自然のままにあるところです。そして何事も急がずに、日々の時間がゆっくりと進んでいるようです。

毎日の生活に疲れたかた、気持ちをリフレッシュしたいかた、スコッチウイスキー(現地ではシングルモルト、日本の造り酒屋に相当する蒸留所が多数あります)が好きなかたは一度訪ねられてはいかがでしょうか。そうです、こちらに足を踏み入ると、あのスコットランド民謡の「蛍の光」の曲の静かな雰囲気



北東端、ダンカンズビー

気をじっくりと味わえます。そして京都の毎日とは異なる、ゆったりとした世界にはまり込むことでしょう。ただ予定を組まれる際、冬の季節は止めましょう。スコットランドの夜は京都よりずっと長く動ける時間が短くて損です。

ダンロビン城
今も伯爵が住んでいるクライネリッシュ蒸留所
ジョニーウオーカ原酒を供給ネス湖
ネッシーはどこにいる



事務局だより

行事予定

新春バス研修旅行のご案内

開催日：2023年1月19日(木)
 行先：奈良・三重方面
 (詳細は同封の別紙参照)

共催講演会

開催日：2023年1月30日(月)
 演題：地域連携が生み出す未来
 講師：京都文教大学学長 森正美氏
 (詳細は同封の別紙参照)

京都見聞・こぼれ話

第6号「家を守る 鬼より強い鐘馗さん」をお届けいたします。

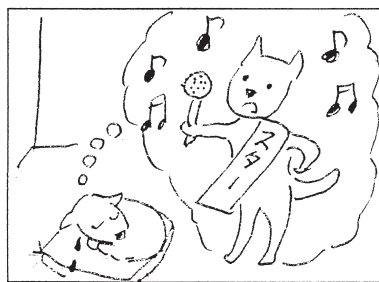
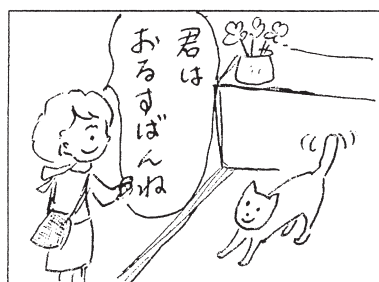
ミニ講座・共催講演会の結果報告

下記2件の報告書をお届けいたします。

- ・ミニ講座：2022年11月18日開催
「ようこそ動物園へ」
- ・共催講演会：2022年11月21日開催
「京都の凸凹を歩く」



ひねもすのたりのたり



監事
米澤 可矢作

同窓研修会 継続入会のお願い

2023年度(令和5年度)も継続して同窓研修会に入会していただきます様、お願い申し上げます
 詳細につきましては、同封しました書面をご参照の程、宜しくお願い申し上げます



次号「ざんぐり」(111号)の予定

発行日：2023年3月15日(水)
 「ざんぐり」は同窓研修会会員の機関誌です。自由にどしどし投稿してください。